

【4月月例会】 全トーク！

共に考え、共に語ろう！！

この場所だからこそ
立場だからこそ話せる
人と分かち合うと、喜びは2倍に悲しみは半分に！

〈日時〉 4月20日(土) 13:30~16:30
〈場所〉 山梨県福祉プラザ 4F
〈参加費〉 一家族 1,000円 (当事者は無料)
〈内容〉

親 当事者と共にグループに分かれて話します。各グループに、当事者に入って頂きます。彼らとの対話は、親、当事者双方に気付きを与えてくれる機会です。是非、多くの方々に参加して頂きますように。

4月から再開

🌸《当事者スペース》 4月から当事者スペースを再開致します。

〈日時〉 4月20日(土) 13:30~16:30
〈場所〉 山梨県福祉プラザ パソコン室

【4月のミニグループトーク】

〈日時〉 4月27日(土) 10:00~12:00
山梨県福祉プラザ 4F
月例会とは違った集い、心おきなく話しましょう。
🌸参加費は500円です。(当事者は無料)

農園でギャザリングしよう

- ◆市民農園・1区画 55㎡(約17坪)1年間 6,000円
場所: 甲府市七沢町
友達、家族などで一緒に畑で過ごしませんか！
- ◆お問い合わせ=055-243-0261(相良農園)

すみれ会

- ◇月例会 4月13日(土)13:30~15:30
場所: 南アルプス市市民活動センター
- ◇お問い合わせ=090-5416-8748(清水)
- *すみれ会は桃の会とは別に地域で活動している家族会です



お問い合わせ

TEL/FAX
0266-55-5411
090-6190-8677
桃の会事務局

桃の会今後の予定 2019年

- *月例会 5月12日(日)福祉プラザ第一会議室
- *ミニグループトーク 5月26日(日)福祉プラザ第一会議室



山梨県 桃の会

HP: <http://momonokai.org/> E-mail: meri-sannokuni@softbank.ne.jp

会報第55号

子供は親の所有物でない
子供に別の人格を認めてあげる
その為には親の方が成熟し
自立しなければならない



出会う、つながる、わかちあう

KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 山梨支部

ピア Voice

①
Kさんの息子さんは4年間自立の為にグループホームで過ごす中で徐々に違和感を覚えるようになり、今回多量の薬を飲んでしまった。その経緯の中でグループホームの対応、母の思いを書いて頂きました。

施設長が今回のこと(薬を15日分飲んだこと)で今度またこの様なことが起きたらここは夜間がないので困る、今回は自分に向いたけど後の17名を守らなければいけない、もしほかの利用者に向かったら困るといわれうちのグループホームは知的と重度の人で息子とは障害特性が違う、なかなか理解するのがここでは難しいと、、、息子の今の状態も一言も聞かず淡々とここではもう見られないといわれ私は悲しくなり、では発達の人(最近増えている)けどどうやって生きていけばいいんですか？毎日生きずらさを抱えて必死でいきているんですとうったえたら涙が溢れる出しました、今社会では全然発達のこと理解されてないと改めて痛感しました。

帰ってから息子にグループホームにもう帰れないと伝えると大混乱、今も不安定にはなりません、でも親としたらあそこはちよつとムリがあった、かわいそうな思いさせた4年間だったと改めて思いました、いまは息子をそっと見守りたいと思います。

(K)

②
「なぜこうなってしまったのでしょうか」ある母親の真剣な質問だった。私はこの質問に、母親の深い悲しみと苦悩を感じ一瞬言葉に詰まった。多くの家族が心の中で何度も繰り返した思いに違いない。彼らのエネルギーを吸い取ってしまったものは何か？エネルギーの元を断っているものは何だろう。

親は、「わからない!」「原因を知りたい」と強く思っている。しかし、子供の心の中に積み上げていった思いは簡単に言葉で表現できるものではないのかもしれない。「どうしてこうなったのか」という親の疑問は、今の社会に生きている全員に投げ掛けられた疑問ではないか。今、私達一人一人が真剣に危機感を持って向き合う時ではないか。根本は「親の問題」であっても、その問題を浄化していく力が社会になくなってしまった。むしろ更に追い込まれていく社会になってはいないだろうか。人と人の繋がりが希薄になっていく社会は、孤立感を増し人としての成長する機会を奪っていく。彼らのサインを見逃してはならない。「人は人付き合いが少なくなればなるほど、あるいはできなくなるほど不安が強くなり苛立ちが強くなり疲れやすくなる」という事があるようです。」(子供へのまなざしから 佐々木正美著) この社会に変化をもたらす為には「何故?」という疑問にしっかり向き合う私達の強い覚悟と勇気が必要とされるだろう。

(sino)

当事者 Voice

人とのつながりの重要性を強く感じました。

京都に来て一人暮らしを始めて半年が経ちました。それまでは実家の仕事を手伝っていましたが、些細なことで引きこもり一年ほど経ってついに心配になった両親が救急車を呼びそのまま2ヶ月ほど入院しました。その後退院したあとで山田さんの助力を得て今に至ります。

ひきこもっている期間はとても苦しかったです。両親にも、だれにも顔を合わせず、自分の存在が周りの人を苦しめているのは分かっている自分ではどうすることもできず、なるべく存在が意識されないよう呼吸すらしづらい毎日でした。いっそわたしなんていない方がいいと思いつつも何度も命を断とうとしましたが、その度に失敗したり踏み切れなかったりして、死ぬことすらできないのかと更に自己嫌悪に陥りました。そこから無理やり連れ出され精神病院へ入院しました。私の場合は一年と少しでしたが人によっては10年20年さらにはそれ以上ひきこもっている人も多いそうです。

「親の死体と生きる」それは単なる冗談ではなく実際に起こりうることなのです。もしもあのまま親も私も踏ん切りがつかず、おやが亡くなるまで現状を変えることができなかつたらどうなっていたでしょうか？隣の部屋で冷たくなっている親に気付いた時果たして何十年間もひきこもり誰とも交流のない私はその後の対応をそつなくこなせるでしょうか。おそらく無理だと思います。状況によっては犯罪者になっていた可能性もあります。そう考えると私は幸運でした。今までの経験を通じ、人とのつながりの重要性を強く感じました。現状を打破するために救急車を呼んでくれた両親、その両親をサポートし相談に乗ってくれたオレンジの会のみなさんのおかげです。本当にありがとうございました。「親の死体と生きる若者たち」から

(Y)



「親の「死体」と生きる若者たち」

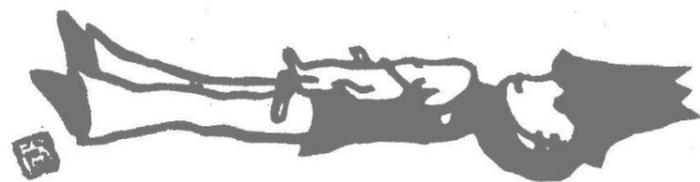
山田孝明：著

- 8050問題は高齢の親を死ぬまで苦しめても立ち直れない子供たち
- 母と娘が孤立の末に餓死、札幌の事件が示す現代のひきこもりが行きつく先
- 親が亡くなり、電気とガスが止まり、、、息子が死体遺棄で逮捕、親子心中で懲役刑というケースも！

お問い合わせ

株式会社青林堂

03-5468-7769 (1400円税抜)



ボクには
ボクにしか できないことが
必ずある
と思っています